

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171700509		
法人名	社会福祉法人 恵和会		
事業所名	グループホーム 花の木(第一ホーム)		
所在地	岐阜県恵那市大井町2709-72		
自己評価作成日	平成23年12月26日	評価結果市町村受理日	平成24年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171700509&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>木造作りの平屋で自然豊かで静かな環境の中、地域との交流を持ちながら皆さんと日向ぼっこをするように穏やかで安らぎのある生活えを共に支え合い、個々を尊重するなかで予防と機能維持の取り組みを楽しみながら行い自立支援に繋がっています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者は、豊かな自然環境の中で、これまで培ってきた家族や地域社会との関係を大切にしながら暮らしを継続している。職員は、利用者の気持ちに向き合い、寄り添い、一人ひとりを尊重したケアに取り組んでいる。そして、重度化の進行が避けられない中であっても、残存機能を活かしながら、できるだけ長く、ホームでの生活が続けられるように、自立を支えている。終末期の対応では、母体法人の機能と緊密に連携し、最期まで安心して暮らすことができるように支援をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(第一ホーム)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を原点に地域密着型サービスとしてホーム独自の理念を作り、目につく場所に掲げ共有・意識づけに努め実践に繋がれるような取り組みを進めています。	地域との繋がりの中で、「利用者が穏やかで、安らぎのある暮らし」を理念に掲げている。玄関の目につく場所に掲示し、ミーティングで意識を共有している。残存機能を活かし、自立した暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域社会との繋がりを常に意識し事業所から歩みよる事に努め、挨拶や行事へのお誘い、地域住民との交流においても徐々に広がりを見せています。	事業所は、地域の一員として、祭りや地域の行事にも利用者と共に参加している。地域活動へ積極的に参加することで、事業所の存在価値が認められている。地域住民を対象にした認知症講座も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に訪問や行事参加をしてもらい交流の場を作り、生活状況を理解して頂けるように努めています。地域の高齢者の暮らしに反映出来る様に働きかけに努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で入居者の近況・事業所の取り組みを報告するだけでなく災害時の対応、勉強会を行う中で運営推進委員の方々から率直な意見を頂き職員に伝達し、サービスの向上に活かせる様に努めています。	会議は、2ヶ月毎に開催し、自治会長・地域包括支援センター・家族代表などが参加している。事業報告に次いで課題を討議している。災害時の対応や行事の改善で意見を交わしている。それらの結果を受け入れ、サービスの向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議、行事参加を通じて連絡・情報交換に努めるだけでなく、介護相談員さんの訪問により市町村との連携、家族からの問い合わせ等に電話やメールで対応し協力関係を築いていけるように努めています。	市の介護相談員が毎月訪問し、利用者の相談に応じている。本人・家族の生活課題は、協力して対応している。何かあれば、行政の窓口まで出向き、相談している。日頃から事業所の実情を伝え、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束をしない意識づけや拘束をしない援助に取り組んでいます。利用者に対して緊急やむを得ない場合にはスタッフ間で話し合い家族に説明・同意を得ていますが代替策を検討していきます。玄関は夜間のみとしています。	身体拘束をしないケアの実践に努めている。利用者の安全を守るためにやむを得ない時は、家族と話し合い、最小限度の時間帯に留めている。また、その際には、代替え対策も検討し、工夫している。家族の理解を得て、同意書を交わしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・勉強会の参加に努め虐待防止への意識をミーティングで徹底できるようにしています。家族との会話により関係を把握し、職員間ではコミュニケーションの機会を作り配慮に努めています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、勉強会で学び、関係者との連携をとり入居者に活用するだけでなく家族にも制度について理解して頂ける機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・解約時の説明・改定時の同意はもちろんのこと入居後の様子・状態変化に応じて家族へ連絡し、今後の援助方針も含めて確認に努め、理解を得ています。面会時や行事を通じて安心感に繋がっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、近況報告通じて面会・行事の際、家族から意見や要望を聞けるようにしています。平成20年度よりサービス内容のアンケート調査を家族宛に実施、結果を運営推進会議・ミーティングで話し家族の心情を察していけるように心がけていきます。	家族の面会時や行事で集まった際に、要望や意見を聞いている。また、無記名のアンケート調査を行い、結果を運営推進会議や家族会で報告し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、意見・提案に耳を傾け、詳しく把握できる様に記録にも目を通し、スタッフ間とのコミュニケーションにも努めています。	管理者は、月に1回のミーティングで、職員から意見・提案を聞いている。必要な備品の設置や勤務形態の見直しなどについて話し合っている。それらを運営に反映させ、業務改善に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の姿勢や意欲を把握する様にコミュニケーション心がけています。人事考課制度導入によりスタッフとの面接により努力・実績を理解し前向きに取り組めるように環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々の力量を把握し研修・勉強会への参加により実践に活かせる知識や技術を身につけていける取り組み、資格取得への協力を行い質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流、事業所内の勉強会、福祉機関・地域事業からの案内を詳しく伝達し、積極的に参加を勧めミーティング等の機会に再度、職員間で把握を行いサービスの質を高めることに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に、利用初期において関わりを多く持ち個別ケア・傾聴に努め、本人の気持ちを受け止めサービスに繋げていくことで本人、家族との信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時より家族状況、思いを傾聴しサービスの内容・方向性を話し合い同意を頂ながら信頼関係を築いていけるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状、本人、家族が必要とする支援の把握に努め、担当の介護支援専門員・法人内の専門職とも連携を図り初期段階での支援に活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共生の中で尊厳を持って関わり、お互いを支えあう中で生活歴・強みを把握し活かしていくことで信頼関係に繋げています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め本人との家族関係を理解し、共に支え合っていくことで信頼関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の配慮や家族の協力を得ながら手紙・電話・訪問を通じ馴染みの関係が継続出来る様、入居者の状態に合わせた援助に努めています。	利用者の状態に合わせ、家族の協力も得て、はがき(年賀状・暑中見舞い)や電話を活用し、馴染みの人や行きつけの喫茶店・商店などとの関係を大切にし、継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態把握に努め、関わりを持つ中で利用者同士の関係を探り日課、活動を通じお互いの存在を認めあえる様に支援に心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても方向性に沿った相談や支援に努め、つぎの環境でも変わらない生活が維持出来る様に情報提供にも心がけ本人、家族との関係が継続出来る様努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活状況において関わりを通じ思いや希望の把握に努め、家族とも連携を取り「ミーティング帳に記録し職員間で共有することで意志の尊重、自己決定に心がけています。	日常生活の関わりの中から、思いや意向を把握している。ミーティング帳で記録に残し、職員間で共有している。言葉や意思を伝える事が困難な人は、表情や仕草から意向の把握に努め、利用者が自己決定しやすいように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、面会の際、家族との関係に配慮し生活歴や情報を把握し、本人とも関わりの中で意向を探り個々を理解することにより、その人らしく生きて頂ける様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、ミーティング、個人処遇記録を通じて一人ひとりの生活状況や状態把握に努め、総合的な目を養いチームケアに活かしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員により本人や家族の思いを確認し、課題分析とモニタリングを行い、職員間で検討し介護計画の作成に繋がっています。家族同席にてカンファレンス会議を行い同意後にサービスを開始しています。	担当職員が、家族や利用者の思いや意向を確認してモニタリングを行い、課題を分析している。担当者・ケアマネジャー・家族により、サービス担当者会議を行い、職員間で検討して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況や介護計画による実践結果を誰にでも理解できる様に記録し、日々のケアに活かせる様、ミーティング帳の活用も合わせて情報を共有し介護計画の見直しに繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状のニーズに対応するために法人内の事業所に相談し、助言・協力を得ながら多様な援助方法の中で柔軟な支援に繋がっています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の生活歴や生活環境での地域資源を理解し、ボランティア・知人の繋がりによる力を借りて安楽で豊かな生活が出来る様に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の受診状況と家族の希望を優先し継続的な医療を受けて頂いています。主治医との連携を図り、家族にも現状の身体・精神面を理解して頂ける様に受診の同行や協力を依頼しています。	利用前のかかりつけ医を継続し、家族の協力により通院している。ホーム協力医による診察は、月2回ある。かかりつけ医と協力医の緊密な連携の下、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりの中で状態観察に努め、変化や気づきを看護師に申し送り適切な対応が迅速に行えるように努めています。月2回、事業所内の看護師が訪問した際に状態変化を伝え、指示・助言により対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診時より本人の情報提供に努め、主治医との関係作りに活かしています。入院の際、本人・家族の負担軽減に配慮し生活状況・援助について話し、入院後は経過に沿って病院側と連携を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として重度化・終末期の方針や方向性を定め、家族に書面にて説明し同意を得ており、そのうえで出来る事に努めています。	基本的には、看取りを行わない方針である。ホームでの日常生活が難しくなり、身体状態・生活動作が低下し、経口摂取が困難になって来た時点で、法人の施設や医療機関に移ることにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを見直し、実践の徹底と研修・勉強会に参加していますが、実践においては不十分な面があるので定期的な訓練と技術の習得に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防署の方の立会いを依頼し職員の対応が徹底できるように努めていきます。地域の方にも参加を呼びかけ協力体制を築いていきます。災害時の必要物品の確認もおこなっています。	年に2回、消防署の指導のもと避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練を計画している。食料品を備蓄して常に品質を管理をしている。地域へ呼びかけ、協力体制を築いている。	夜間を想定した訓練が計画中であり、実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し状態に沿った援助、関わりの中で言葉使いの徹底とプライバシーの確保において常にスタッフ間で確認しあう様に努めています。	日頃より、言葉遣いや人格を尊重した接遇方法を職員間で話し合い、確認している。特に、排泄誘導時や入浴介助、名前の呼び方、入室時等、配慮してケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で関わり、利用者の思いや希望の傾聴に努め更に、表情・状態から思いを汲み取り職員間で共有し支援に繋げています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は決めていますが出来る限り、一人ひとりの生活リズムを大事にしてペースに合わせながら希望・願いを取り入れた援助に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の活用・化粧・ネイルの実施や洋服の好みを聞き、その人らしさが身だしなみ状態の安定に活かせるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好の聞き取り、リクエストメニューを行い食への楽しみに繋げています。食事に関わる役割を持って頂き、個々の力量を発揮出来る様に支援しています。	母体法人の栄養士の協力を得て、利用者のリクエストもメニューに採り入れた食事を作っている。リクエストによる献立の際は、一緒に調理したり、準備や片付けも手伝っている。好きな食べ物話題にすることで、食の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に数回、カロリーメニューを実施し栄養面の知識向上に努めています。個々の食事・水分量をチェック表にて確認し状態に合わせて支援に繋げています。日頃より関わりながら習慣の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	研修・勉強会において口腔ケアの必要性を理解し毎食後、一人ひとりの口腔内の状態とケアの状況に応じて支援しています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導表、尿量、排便チェックから個々の排泄状況を把握し、関わりの中でトイレでの排泄、排泄動作の維持と不快感の軽減に努めています。	一人ひとりの排泄習慣状況を把握し、排泄の成功が利用者の自信に結び付くように支援している。便秘による苦痛や不快感がないように、生活習慣や内服薬でコントロールしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所時、家族から排便状況を確認し、排便間隔をチェック表から把握し飲食物・運動・散歩等で予防し自然排便に繋げています。経過により主治医に繋げています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2ホームで入浴の時間帯を変えており個々の希望、入浴状況に応じて入浴日や順番に配慮し心地良く、安全に入浴して頂けるように努めています。	週3回の入浴を基本としているが、希望があれば、毎日でも対応している。2ユニットで協力体制が出来ており、身体機能の低下した利用者も、2人対応で、楽しく安全に入浴してもらえよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活状況や心身の状態把握に努め日中、傾眠の要因や環境においても配慮し、個々の生活リズム中で安眠や休息が取れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的、用量、副作用を理解し誤認防止への対応として、呼名にて手渡し服薬管理を行なう。服薬後の状況を把握し医療職に申し送り、受診際にも主治医との連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、残存機能を役割や楽しみに活かすことで気分転換や生活意欲に繋げられるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援、外出において希望に沿った支援が充分に行えているとはいえないが、家族の協力・地域のイベント、法人内の行事に参加しています。車輛の補充をあり、少人数の支援を試みています。	その日の体調や天候により散歩コースを決めて出かけている。個別の外出支援が出来るように、病院受診の帰りの時間を活用して、買い物や喫茶店などに連れて行くことも試みている。	

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に応じて家族と話し、外出時に利用者による買い物にて使用試みています。家族には預かり金の収支報告を定期的に行い管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、暑中見舞いや年賀状の作成を活動に取り入れます。希望に応じて電話の使用や知人への手紙を取り次ぎ個別に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全性のみにとらわれず、居心地良く落ち着いた空間への配慮と季節感が感じられる物を取り入れ、作品・掲示物により安心感・馴染みをもてるように利用者と一緒に環境作りに努めています。	木のぬくもりを活かし、居心地の良い落ち着いた空間作りを行っている。共用の部屋には、掛け軸・絵画・紅白の花モチ等を飾り、生活感を出すよう工夫している。壁には利用者による作品も展示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有ルーム内でソファや座椅子の配置を工夫し、和室の活用を考慮する中で、個々で落ち着ける、気の合う方と過ごせる居場所作り努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には和室と洋間があり、入居時に馴染みの家具・掲示物を自由に持ち込んで頂き、家族が面会の際に確認して頂きながら居心地良く過ごして頂けるように努めています。	ベッド・カーテン・整理筆筒はホームで用意してあるが、テレビやちゃぶ台、座布団、家族の写真・絵手紙など、思いおみの物を持ち込んでもらい、居心地良いように工夫して配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造作りで段差のないオープンフロアで個室の入り口に好みよりのれんや作品を掛けさせて頂く、トイレ洗面においては私物の物品置きながら自立した生活に繋げています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171700509		
法人名	社会福祉法人 恵和会		
事業所名	グループホーム 花の木 (第二ホーム)		
所在地	岐阜県恵那市大井町2709-72		
自己評価作成日	平成23年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(第二ホーム)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を原点に地域密着型サービスとしてホーム独自の理念を作り、目に付く場所に掲げ共有・意識づけに努め実践に繋がれるような取り組みを進めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域社会との繋がりを常に意識し事業所から歩みよる事に努め、挨拶や行事へのお誘い、地域住民との交流においても徐々に広がりを見せています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に訪問や行事参加をしてもらい交流の場を作り、生活状況を理解して頂けるように努めています。地域の高齢者の暮らしに反映出来る様に働きかけに努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で入居者の近況・事業所の取り組みを報告するだけでなく災害時の対応、勉強会を行う中で運営推進委員の方々から率直な意見を頂き職員に伝達し、サービスの向上に活かせる様に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議、行事参加を通じて連絡・情報交換に努めるだけでなく、介護相談員さんの訪問により市町村との連携、家族からの問い合わせ等に電話やメールで対応し協力関係を築いていけるように努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束をしない意識づけや拘束をしない援助に取り組んでいます。利用者に対して緊急やむを得ない場合にはスタッフ間で話し合い家族に説明・同意を得ていますが代替策を検討していきます。玄関は夜間のみとしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・勉強会の参加に努め虐待防止への意識をミーティングで徹底できるようにしています。家族との会話により関係を把握し、職員間ではコミュニケーションの機会を作り配慮に努めています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、勉強会で学び、関係者との連携をとり入居者に活用するだけでなく家族にも制度について理解して頂ける機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・解約時の説明・改定時の同意はもちろんのこと入居後の様子・状態変化に応じて家族へ連絡し、今後の援助方針も含めて確認に努め、理解を得ています。面会時や行事を通じて安心感に繋げています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、近況報告通じて面会・行事の際、家族から意見や要望を聞けるようにしています。平成20年度よりサービス内容のアンケート調査を家族宛に実施、結果を運営推進会議・ミーティングで話し家族の心情を察していけるように心がけていきます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、意見・提案に耳を傾け、詳しく把握できる様に記録にも目を通し、スタッフ間とのコミュニケーションにも努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の姿勢や意欲を把握する様にコミュニケーション心がけています。人事考課制度導入によりスタッフとの面接により努力・実績を理解し前向きに取り組めるように環境や条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々の力量を把握し研修・勉強会への参加により実践に活かせる知識や技術を身につけていける取り組み、資格取得への協力を進めていくことに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流、事業所内の勉強会、福祉機関・地域事業からの案内を詳しく伝達し、積極的に参加を勧めミーティング等の機会に再度、職員間で把握を行いサービスの質を高めることに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に、利用初期において関わりを多く持ち個別ケア・傾聴に努め、本人の気持ちを受け止めサービスに繋げていくことで本人、家族との信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時より施設見学を勧め生活環境を理解して頂き、家族状況、思いを傾聴しサービスの内容・方向性を話し合い同意を頂ながら信頼関係を築いていけるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の中で本人の入居に対する思い、家族が必要とする支援の把握に努め、担当の介護支援専門員・法人内の専門職とも連携を図り初期段階での支援に活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共生の中で尊厳を持って関わり、お互いを支えあう中で生活歴・強みを把握し活かしていくことで信頼関係に繋げています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め本人との家族関係を理解し、共に支え合っていくことで信頼関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の配慮や家族の協力を得ながら手紙・電話・訪問を通じ馴染みの関係が継続出来る様、入居者の状態に合わせた援助に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活日課の中でお互いの存在により、刺激や認めあえる関係を作り輪を築いていける様な支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても方向性に沿った相談や支援に努め、つぎの環境でも変わらない生活が維持出来る様に情報提供にも心がけ本人、家族との関係が継続出来る様努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活状況において関わりを通じ思いや希望の把握に努め、家族とも連携を取り「ミーティング帳に記録し職員間で共有することで意志の尊重、自己決定に心がけています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、面会の際、家族との関係に配慮し生活歴や情報を把握し、本人とも関わりの中で意向を探り個々を理解することにより、その人らしく生きて頂ける様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、ミーティング、個人処遇記録を通じて一人ひとりの生活状況や状態把握に努め、総合的な目を養いチームケアに活かしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員により本人や家族の思いを確認し、課題分析とモニタリングを行い、職員間で検討し介護計画の作成に繋げています。家族同席にてカンファレンス会議を行い同意後にサービスを開始しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況や介護計画による実践結果を誰にでも理解できる様に記録し、日々のケアに活かせる様、ミーティング帳の活用も合わせて情報を共有し介護計画の見直しに繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状のニーズに対応するために法人内の事業所に相談し、助言・協力を得ながら多様な援助方法の中で柔軟な支援に繋げています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の生活歴や生活環境での地域資源を理解し、ボランティア・知人の繋がりによる力を借りて安楽で豊かな生活が出来る様に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の受診状況と家族の希望を優先し継続的な医療を受けて頂いています。主治医との連携を図り、家族にも現状の身体・精神面を理解して頂ける様に受診の同行や協力を依頼しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関わりの中で状態観察に努め、変化や気づきを看護師に申し送り適切な対応が迅速に行えるように努めています。月2回、事業所内の看護師が訪問した際に状態変化を伝え、指示・助言により対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	受診時より本人の情報提供に努め、主治医との関係作りに活かしています。入院の際、本人・家族の負担軽減に配慮し生活状況・援助について話し、入院後は経過に沿って病院側と連携を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として重度化・終末期の方針や方向性を定め、家族に書面にて説明し同意を得ており、そのうえで出来る事に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを見直し、実践の徹底と研修・勉強会に参加していますが、実践においては不十分な面があるので定期的な訓練と技術の習得に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防署の方の立会いを依頼し職員の対応が徹底できるように努めていきます。地域の方にも参加を呼びかけ協力体制を築いていきます。災害時の必要物品の確認もおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し状態に沿った援助、関わりの中で言葉使いの徹底とプライバシーの確保において常にスタッフ間で確認しあう様に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で関わり、利用者の思いや希望の傾聴に努め更に、表情・状態から思いを汲み取り職員間で共有し支援に繋げています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は決めていますが出来る限り、一人ひとりの生活リズムを大事にしてペースに合わせながら希望・願いを取り入れた援助に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の活用・化粧・ネイルの実施や洋服の好みを聞き、その人らしさが身だしなみ状態の安定に活かせるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好の聞き取り、リクエストメニューを行い食への楽しみに繋げています。食事に関わる役割を持って頂き、個々の力量を発揮出来る様に支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に数回、カロリーメニューを実施し栄養面の知識向上に努めています。個々の食事・水分量をチェック表にて確認し状態に合わせて支援に繋げています。日頃より関わりながら習慣の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	研修・勉強会において口腔ケアの必要性を理解し毎食後、一人ひとりの口腔内の状態とケアの状況に応じて支援しています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導表、尿量、排便チェックから個々の排泄状況を把握し、関わりの中でトイレでの排泄、排泄動作の維持と不快感の軽減に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所時、家族から排便状況を確認し、排便間隔をチェック表から把握し飲食物・運動・散歩等で予防し自然排便に繋げています。経過により主治医に繋げています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2ホームで入浴の時間帯を変えており個々の希望、入浴状況に応じて入浴日や順番に配慮し心地良く、安全に入浴して頂けるように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活状況や心身の状態把握に努め日中、傾眠の要因や環境においても配慮し、個々の生活リズム中で安眠や休息が取れるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的、用量、副作用を理解し誤認防止への対応として、呼名にて手渡し服薬管理を行なう。服薬後の状況を把握し医療職に申し送り、受診際にも主治医との連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、残存機能を役割や楽しみに活かすことで気分転換や生活意欲に繋げられるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援、外出において希望に沿った支援が充分に行えているとはいえないが、家族の協力・地域のイベント、法人内の行事に参加しています。車輛の補充をあり、少人数の支援を試みしています。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に応じて家族と話し、外出時に利用者による買い物にて使用試みしています。家族には預かり金の収支報告を定期的に行い管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、暑中見舞いや年賀状の作成を活動に取り入れいます。希望に応じて電話の使用や知人への手紙を取り次ぎ個別に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全性のみにとられず、居心地良く落ち着いた空間への配慮と季節感が感じられる物を取り入れ、作品・掲示物により安心感・馴染みがもてるように利用者と一緒に環境作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有ルーム内でソファーや座椅子の配置を工夫し、和室の活用を考慮する中で、個々で落ち着ける、気の合う方と過ごせる居場所作り努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には和室と洋間があり、入居時に馴染みの家具・掲示物を自由に持ち込んで頂き、家族が面会の際に確認して頂きながら居心地良く過ごして頂けるように努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造作りで段差のないオープンフロアで個室の入り口に好みよりのれんや作品を掛けさせて頂く、トイレ洗面においては私物の物品置きながら自立した生活に繋げています。		